

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施												【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	
I-1-(2)-⑤ 子どもの特性を伸ばす教育の充実	1	博物館セカンドスクール事業	自然・歴史博物館普及課	博物館を第二の学校と位置づけ、修学旅行・社会見学など学校教育の一環として、子どもたちの博物館利用の促進を図るものである。	学校団体誘致数	1,116団体(H24年度)	目標 1,000 団体 実績 1,316 団体 達成率 131.6 %	1,200 団体 1,382 団体 115.2 %	1,200団体以上(毎年度)	1,857	1,353	1,308	16,075	課長 0.05 人 係長 0.50 人 職員 1.40 人	順調	修学旅行・社会見学等、学校団体の誘致活動を積極的に行った結果、その効果もあり目標を達成したため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 誘致した学校団体数や入館者数が目標を達成していることから、「順調」と判断。 【課題】 入館者数増加に結びつく企画展に取り組み、学習機会を提供する必要がある。	子どもたちの来館機会を創出することで、知的好奇心や、学習意欲を高める効果が見込めるため、引き続き事業を推進していく。
	2	文学館普及研究費	文学館	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。	企画展の入館者数(単位:人)	10,741人(H24年度)	目標 22,000 人 実績 23,436 人 達成率 106.5 %	22,000 人 24,743 人 112.5 %	22,000人(H29年度)	19,125	17,668	22,919	12,625	課長 0.50 人 係長 0.50 人 職員 0.25 人	順調	入館者数が目標を上回ったため「順調」と判断。			
I-1-(3)-② 家庭教育支援の充実	3	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する。	朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合	小:93.0% 中:91.9% (H25年度)	目標 小:97% 中:95% 実績 小:92.0% 中:90.5% 達成率 小:94.8% 中:95.2%	小:98% 中:97% 小:92.5% 中:90.9% 小:100% 中:100% (H30年度)	9,358	7,307	8,572	9,150	課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 0.80 人	順調	朝食の摂食状況については、目標には達していないものの、9割以上の子どもたちが毎日「食べている」、「どちらかといえば食べている」と回答している。 家庭教育学級開設数は、目標の350箇所を下回る333箇所、昨年度より11箇所減少しているが、幼児の保護者が小学校入学前に家庭教育の重要性を学ぶ「家庭教育講座」、全市版家庭教育学級としての「家庭教育講演会」等も実施した。 子育てサポーターリーダー登録者数は目標の170人を下回る157人であったが、平成28年度は子育てサポーターリーダー養成研修を行う等、子育てネットワーク事業の充実が図られた。 以上から「順調」と判断。	順調	【評価理由】 朝食を食べている児童生徒の割合が、増加しているため、「順調」と判断。 【課題】 家庭教育の重要性を啓発する家庭教育学級を効率よく実施するため、PTAの負担軽減を図る必要がある。	効率の良い家庭教育学級の実施方法を検討し、事業を推進していく。 市民センターにおいて子育てサポーターの研修充実を図るなど、子育てサポーターの活用策の具体化について今後関係局と協議し、実施を目指していく。	

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		H26年度		人件費(目安)		H28年度			H30年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
I-1-(3)-③ 地域全体が教育を支える社会の実現	4	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会を充実、子どもたちの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する。	朝食を毎日「食べている」「どちらかといえれば食べている」と回答した児童生徒の割合	小: 93.0% 中: 91.9% (H25年度)	小: 92.0% 中: 90.5%	小: 92.5% 中: 90.9%	小: 100% 中: 100% (H30年度)	9,358	7,307	8,572	9,150	課長 0.10人	順調	朝食の摂食状況については、目標には達していないものの、9割以上の子どもたちが毎日「食べている」、 「どちらかといえれば食べている」と回答している。 家庭教育学級開設数は、目標の350箇所を下回る333箇所、昨年度より11箇所減少しているが、幼児の保護者が小学校入学前に家庭教育の重要性を学ぶ「家庭教育講座」、全日本家庭教育学級としての「家庭教育講演会」等も実施した。 子育てサポーターリーダー登録者は目標の170人を下回る157人であったが、平成28年度は子育てサポーターリーダー養成研修を行う等、子育てネットワーク事業の充実が図られた。 以上から「順調」と判断。	順調	【評価理由】 子育てサポーター養成講座を行う等地域で子育てを支える活動を実施していること、朝食を食べている児童生徒の割合が増加していることから、「順調」と判断。 【課題】 家庭教育学級や子育てサポーターの活動が地域全体で子どもを育てることにつながるよう情報提供を図る必要がある。	家庭教育に関する保護者への情報提供や、子育てサポーターの活動による保護者の不安軽減を図るため、事業を推進していく。	
実績	達成率	達成率	課長 0.20人																	
実績	達成率	達成率	職員 0.80人																	
I-3-(1)-① 多様な学習機会や学習情報、学びの場の提供	5	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。また、生涯学習市民講座等の手法を活用して意見交換の場を設け、これまで市民センターをあまり利用していなかった地域住民等に参加を呼びかけて意見交換、情報交換を行い、地域活動や市民センター事業、学校支援事業等への参加を促すほか、地域課題解決のための学習会を行う地域デビュー支援事業を実施する。	生涯学習市民講座参加者数	93,589人 (H25年度)	106,000人 96,182人	100,000人 85,864人	100,000人 (H29年度)	15,329	14,151	14,498	6,900	課長 0.10人	順調	生涯学習市民講座は、講座数(H27年度:1,095講座、H28年度:1,013講座)及び参加者数は減少しているものの、市政モニターアンケートにおいて、生涯学習活動に満足していると感じる人の割合は、目標の90%に達している。 地域デビュー支援事業は、新規館6館、継続館3館で取組み、累計57館となった。目標を上回り、本事業に受講生として参加したことを契機に、地域活動に取組み始めるなど、地域デビューにつながる例が見られ、着実に効果が現れている。 以上を踏まえて、「順調」と判断した。	順調	【評価理由】 生涯学習活動に関する満足度が上がっていること、地域デビュー支援事業の参加者が地域活動に取組み始めていることなど、生涯学習市民講座の効果が出てきている。また、生涯学習コーディネーターは、前年より配置割合は下がっているものの、目標の約8割を達成したことから、「順調」と判断した。 【課題】 生涯学習市民講座への参加者が減少していることから、受講しやすい取組みが必要である。 コーディネーター配置については、配置されたコーディネーターが活動しやすい環境となるよう、市民センター館長や社会教育主事・主事補がサポートしていく必要がある。	生涯学習市民講座は、趣味・教養を目的とした講座から、地域の特色を生かした講座、地域課題解決に向けた講座へシフトしていくとともに、より多くの方に多様な学習機会を提供していく。 生涯学習コーディネーターが増加につなげていく。	
実績	達成率	達成率	課長 0.20人																	
実績	達成率	達成率	職員 0.50人																	
I-3-(1)-① 多様な学習機会や学習情報、学びの場の提供	6	生涯学習推進コーディネーター配置事業	生涯学習課	生涯学習の推進ならびに市民センター等の活性化を図るため、学習機会や人材等、地域に関する様々な情報の収集や提供を行う生涯学習コーディネーターを、全市民センターに配置する。	生涯学習推進コーディネーターの配置割合	56.2% (H25年度)	100% 64.3%	65% 51.1%	85% (H32年度)	10,948	7,107	8,390	3,650	課長 0.10人	順調	平成28年度の生涯学習推進コーディネーター配置館は66館であり、目標値の約8割を達成しているため、「順調」と判断した。	順調	コーディネーター配置については、配置されたコーディネーターが活動しやすい環境となるよう、市民センター館長や社会教育主事・主事補がサポートしていく必要がある。		
実績	達成率	達成率	課長 0.10人																	
実績	達成率	達成率	職員 0.20人																	

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																	
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	
I-3-(2)-① 地域活動をリードする人材の育成	7	北九州市民カレッジ事業	管理運営課	市民に高度で専門的かつ多様な学習機会を提 供し、自己実現の促進 および、生涯学習社会 を担う人材の育成を図 るための事業。 北九州市民カレッジの 講座は、生涯学習総合 センター主催コース (まちづくり・人材育 成系、総合・教養系 2コース)と高等教育 機関提携コースを前 期・後期の2期で実 施。	受講者数 (H28年度から八幡 西生涯学習総合セ ンター実施分も含 む)	690人 (H25年 度)	目標 750人 実績 693人 達成率 92.4%	1,380人 1,435人 104.0%	対前年度 30人増	5,742	4,165	2,966	21,850	課長 0.40人 係長 0.90人 職員 1.10人	順調	講座数(目標:60講座、実 績67講座)、受講者数、受講 者の満足度がいずれも目標を 達成しているため、「順調」 と判断。	【評価理由】 北九州市民カレッジは講座 数、受講者数、受講者の満足 度が目標を達成した。 生涯学習活動促進事業は生 涯学習活動に関する満足度が 上がっていること、地域デ ビュー支援事業の参加者が地 域活動に取組み始めているこ となど、生涯学習市民講座の 効果がでていることから、 「順調」と判断。 【課題】 多様化するニーズを的確に 把握しながら、学んだ方がそ の知識・経験を活かした地域 活動を行うことが可能となる 学習機会の提供。	引き続き、まちづくり、地 域課題や現代的問題解決に向 けた講座を実施するなど多様 な学習機会を提供するととも に、生涯学習総合センターと しての市民への認知度を高め 、「循環型生涯学習社会」 を推進していくための役割を 積極的に果たしていきたい。 さらに、民間カルチャーセ ンターとの住み分けの検討も 進める。	
	8	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	各市民センター等で、 地域課題や現代的課題 等の解決を目指す講 座、心と体の健康づく りを目指す講座など幅 広い分野にわたる講座 を実施する。また、生 涯学習市民講座等の手 法を活用して意見交換 の場を設け、これまで 市民センターをあまり 利用していなかった地 域住民等に参加を呼び かけて意見交換、情報 交換を行い、地域活動 や市民センター事業、 学校支援事業等への参 加を促すほか、地域課 題解決のための学習会 を行う地域デビュー支 援事業を実施する。	生涯学習市民講座 参加者数	93,589人 (H25年 度)	目標 106,000人 実績 96,182人 達成率 90.7%	100,000人 85,864人 85.9%	100,000人 (H29年 度)	15,329	14,151	14,498	6,900	課長 0.10人 係長 0.20人 職員 0.50人	順調	生涯学習市民講座は、講座 数(H27年度:1,095講座、 H28年度:1,013講座)及び参 加者数は減少しているもの の、市政モニターアンケート において、生涯学習活動に満 足していると感じる人の割合 は、目標の90%に達してい る。 地域デビュー支援事業は、 新規館6館、継続館3館で取 組み、累計57館となった。目 標を上回り、本事業に受講生 として参加したことを契機に 、地域活動に取組み始めるな ど、地域デビューにつながる 例が見られ、着実に効果が現 れている。 以上を踏まえて、「順調」 と判断した。			
I-3-(2)-② 地域を支えるボラン ティアの育成	9	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、 NPOと行政の協働を推 進するため、活動や協働 等に関する相談・助言、 情報提供、研修・啓発等 を実施する。	新規設立NPO法人 数(累計)	18法人 (H24年 度)	目標 60法人 実績 60法人 達成率 100.0%	75法人 73法人 97.3%	90法人 (H29年 度)	20,420	18,445	16,252	20,700	課長 0.30人 係長 0.60人 職員 1.50人	順調	新規設立NPO法人数及び サポートセンター利用者数 が目標を概ね達成しているため 「順調」と判断。	【評価理由】 新規設立NPO法人数は目 標を概ね達成していること 、サポートセンターの利用者 数は目標に達していること から、「順調」と判断。 【課題】 市民活動のさらなる促進 のため、新たな活動参加者 の掘り起こしとともに、活 発に活動する市民活動団 体を育成していくことが必 要である。	市民活動を促進する講座 の実施や情報提供の充実を 図っていく。	
				サポートセンター 利用者数	18,362人 (H20年 度)	目標 23,500人 実績 23,623人 達成率 100.5%	24,000人 24,222人 100.9%	24,500人 (H29年 度)											

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価		局施策評価の理由及び課題
II-1-(1)-② 市民の消費生活の安定と向上	10	消費者啓発の推進	消費生活センター	悪質化・巧妙化する消費者被害を未然に防止するため、法律相談会や消費者啓発・教育講座等、消費者自身が危機回避や被害にあった場合の適切な対処法を身に付けるための各種事業を実施するなど、啓発の推進や支援を行う。	消費生活センターの認知度	目標	90%	90%	90%以上(毎年度)	29,086	26,389	23,537	8,075	課長	0.05人	順調	「消費生活センターの認知度」及び、「消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合」ともに目標値を上回り、高い数値を維持しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 目標を達成し、市民の消費生活の安定に寄与していると判断。 【課題】 未然に消費者トラブルを防止するため、情報提供や啓発が必要である。	今後も効果的・効率的な啓発活動に努め、相談窓口の周知とともに、賢い消費者の育成を図り、被害防止に取り組んでいく。
						実績	93.1%	92.9%						係長	0.30人					
達成率	103.4%	103.2%	職員	0.60人																
目標	90%	90%	90%以上(毎年度)	15,635	14,088	13,442	15,900	課長	0.10人											
実績	96.3%	97%						係長	0.35人											
達成率	107.0%	107.8%	職員	1.50人																
II-1-(3)-① 「北九州 市安全・安心」の制定と安心に関わる施策の推進	11	日本トップクラスの安全・安心なまちづくり関連事業	安全・安心推進課	警察、関係団体等と連携し、市民等の防犯意識の向上や自主防犯活動の活発化、安全・安心な環境の整備などに取り組む、日本トップクラスの安全・安心なまちづくりを推進する。	防犯パトロール活動への参加者数	目標	12,000人	14,000人	20,000人以上(H31年度)	15,635	14,088	13,442	15,900	課長	0.10人	順調	安全・安心なまちづくりのための出前講演、セミナー等の実施回数は減少しているが、防犯パトロール活動への参加者数が2,345人増加(14,170人⇒16,515人)、市民が感じる治安状況が4.2%増加(73.7%⇒77.9%)し、目標を達成していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民が感じる治安状況が、前年度実績から好転し、各種犯罪認知件数が1,558件減少(9,682件⇒8,124件)しており、出前講演やセミナー等による防犯意識や知識の向上が着実に図られている。また、安全・安心総合相談ダイヤルを円滑に運用し、市民の相談機会の充実と不安感解消を図っており、「順調」と判断。 【課題】 体感治安の更なる向上のため、引き続き安全・安心に関する情報や取組の情報発信が求められる。また、市政に関する幅広い知識を有する相談員を確保し、適切な相談体制とする必要がある。	犯罪認知件数の減少に体感治安の改善が伴うよう、引き続き安全・安心に関する活動の推進を図るとともに、効果的・効率的に安全・安心に関する情報や取り組みを市内に発信していく。 また、安全・安心総合相談ダイヤル事業は、市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け、市民の相談機会の充実と不安感解消を図るものであるため、継続して事業を実施していく。
						実績	14,170人	16,515人						職員	1.50人					
達成率	118.1%	118.0%	職員	1.50人																
目標	前年度(73%)比増	前年度(73.7%)比増	90%(H31年度)	2,000	2,035	3,107	15,900	課長	0.10人											
実績	73.7%	77.9%						係長	0.35人											
達成率	101.0%	105.7%	職員	1.50人																
II-1-(3)-① 「北九州 市安全・安心」の制定と安心に関わる施策の推進	12	子どもと女性の犯罪被害防止推進事業	安全・安心推進課	子どもと女性の犯罪被害を防止するため、子ども自身や子どもを見守る保護者、女性を対象とした安全セミナー等を開催し、防犯意識や知識の向上を図る。	「安全セミナー」「地域安全マップづくり」延べ実施校	目標	50校	75校	125校(H31年度)	2,000	2,035	3,107	15,900	課長	0.10人	順調	性犯罪の認知件数は前年度に比べ18件減少し、女性のための犯罪被害防止セミナーは目標の7回を上回る12回開催している。また、「安全セミナー」や「地域安全マップづくり」の実施校数は、前年度に比べ4件減少(25件⇒21件)しているものの、延べ実施校では目標を達成していることから、「順調」と判断。	順調	体感治安の更なる向上のため、引き続き安全・安心に関する情報や取組の情報発信が求められる。また、市政に関する幅広い知識を有する相談員を確保し、適切な相談体制とする必要がある。	犯罪認知件数の減少に体感治安の改善が伴うよう、引き続き安全・安心に関する活動の推進を図るとともに、効果的・効率的に安全・安心に関する情報や取り組みを市内に発信していく。 また、安全・安心総合相談ダイヤル事業は、市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け、市民の相談機会の充実と不安感解消を図るものであるため、継続して事業を実施していく。
						実績	56校	77校						職員	1.50人					
達成率	112.0%	102.7%	職員	1.50人																
目標	前年度数(106件)減	前年度数(105件)減	件数減(毎年度)	20,310	18,872	2,437	15,900	課長	0.10人											
実績	105件	87件						係長	0.35人											
達成率	1件減	18件減	職員	1.50人																
II-1-(3)-① 「北九州 市安全・安心」の制定と安心に関わる施策の推進	13	安全・安心総合相談ダイヤル事業	安全・安心相談センター	市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け付ける「安全・安心総合相談ダイヤル」を円滑に運用し、市民の相談機会の充実と不安感解消を図る。	安全・安心総合相談ダイヤルの認知度	目標	—	25%以上(28年度)	前年度比増(毎年度)	20,310	18,872	2,437	15,900	課長	0.10人	順調	安全・安心総合相談ダイヤルを円滑に運用できており、認知度が昨年より上昇していることから「順調」と判断。	順調	体感治安の更なる向上のため、引き続き安全・安心に関する情報や取組の情報発信が求められる。また、市政に関する幅広い知識を有する相談員を確保し、適切な相談体制とする必要がある。	犯罪認知件数の減少に体感治安の改善が伴うよう、引き続き安全・安心に関する活動の推進を図るとともに、効果的・効率的に安全・安心に関する情報や取り組みを市内に発信していく。 また、安全・安心総合相談ダイヤル事業は、市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け、市民の相談機会の充実と不安感解消を図るものであるため、継続して事業を実施していく。
						実績	22%	24.1%						係長	0.35人					
達成率	—%	96.4%	職員	1.50人																

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		H26年度		H28年度		H30年度予算要求に向けた施策の方向性								
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価		評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題					
II-1-(3)-② 防犯活動の強化	14	地域防犯対策事業	安全・安心推進課	北九州市安全・安心条例では、「市民等は安全・安心に関する意識を自ら高め、行動することを」「市及び市民等は相互に連携を深め、防犯活動を協力して推進すること」と定められている。この事業では、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実感できるまちの実現を図る。	街頭犯罪件数	目標	前年(4,973件)比減	前年(3,706件)比減	前年比減	33,346	31,347	31,732	15,900	課長	0.10人	順調	生活安全パトロール隊による年間パトロール平均参加人数(1,826人⇒1,785人)、自主防犯活動の実施回数(273回⇒251回)は昨年度に比べ減少しているものの、目標を達成している。また、街頭犯罪認知件数が前年度に比べ972件減少(3,706件⇒2,734件)したことに加え、市民が感じる治安状況が4.2%増加(73.7%⇒77.9%)し、目標を達成していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が目標を達成していることから「順調」と判断。 【課題】 様々な事業や取組による防犯活動の強化が犯罪件数や体感治安に順調に表れてきているが、更なる整備事業により防犯活動の強化を推進していく必要がある。	通学路防犯灯の拡充推進を図る。また、適正に防犯カメラの維持管理・運用を行っている。今後これらの事業を警察等と連携して推進するとともに、地域への積極的なPRを行い、安全・安心を実感できるまちづくりをすすめる。					
						実績	3,706件	2,734件													達成率	1,267件減	972件減	係長	0.35人
						目標	前年度(73%)比増	前年度(73.7%)比増													実績	73.7%	77.9%		
実績	77% (平成25年)	73.7%	77.9%	達成率	101.0%	105.7%																			
市民が感じる治安状況(体感治安)	77% (平成25年)	73.7%	77.9%	達成率	101.0%	105.7%																			
15	防犯灯設置事業	安全・安心都市整備課	夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため地域と市が協力しながら、防犯灯を設置。防犯灯の設置にあたっては、LED防犯灯の設置を進め、町内会設置の地域に防犯灯の設置のため費用の一部を助成し、明るく安心して生活できるまちづくりを推進。	刑法犯認知件数	目標	前年(11,267件)比減	前年比減	平成31年度 8,000件	169,822	95,704	133,371	3,435	課長	0.04人	順調	目標を概ね達成していることから「順調」と判断。									
					実績	9,682件	8,124件												達成率	1,585減	1,558減	係長	0.17人		
					目標	73%	73%												実績	73.7%	77.9%			達成率	101.0%
市民が感じる治安状況(体感治安)	73% (平成26年)	73.7%	77.9%	達成率	101.0%	106.7%																			
16	防犯カメラ事業	安全・安心都市整備課	暴力団犯罪をはじめ街頭犯罪を抑制し、市民生活等の安全・安心を確保するため、人が多く集まる繁華街や幹線道路に既に設置している防犯カメラの適正な維持管理・運用を行う。	繁華街における犯罪発生件数	目標	前年(1,073件)比減	前年比減	前年比減(毎年)	45,711	44,342	46,349	3,435	課長	0.04人	順調	繁華街における犯罪発生件数が前年度に比して、減少していること、適正に防犯カメラの維持管理・運用ができていることから「順調」と判断。									
					実績	114件増	230件減												達成率	119%増	199%減	係長	0.17人		
					目標	73%	73%												実績	73.7%	77.9%			達成率	101.0%
市民が感じる治安状況(体感治安)	73% (平成26年)	73.7%	77.9%	達成率	101.0%	106.7%																			

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
17	防犯カメラ設置補助事業	安全・安心都市整備課	安全・安心条例の施行を機に、地域団体や事業者が犯罪抑止を目的として公共空間を撮影する際の経費の一部を補助することで、安全・安心な環境の構築に向けたさらなる取り組みを推進する。	刑法犯認知件数	11,267件(平成26年)	目標 前年(11,267件)比減	9,682件	8,124件	平成31年度 8,000件	25,000	21,546	14,725	3,435	課長	0.04人	順調	防犯カメラ設置補助台数は目標を11台下回る79台にとどまったが、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が目標を達成していることから「順調」と判断。			
					実績	達成率														係長
				市民が感じる治安状況(体感治安)	73%(平成26年)	目標 73%	73.7%	77.9%	平成31年度 90%					職員	0.17人					
18	通学路防犯灯拡充事業	安全・安心都市整備課	通学路において、子どもはもとより、女性や高齢者など誰もが安全で安心して歩ける環境づくりにつなげるため、防犯灯(LED灯)の補助制度の拡充や市による防犯灯の設置など、通学路の安全確保に取り組む。	刑法犯認知件数	9,682件(平成27年)	目標 前年(9,682件)比減	8,124件	平成31年度 8,000件	20,000	6,857	-	3,435	課長	0.04人	順調	通学路防犯灯設置灯数は目標の600灯に対し412灯にとどまったが、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が目標を達成していることから「順調」と判断。				
					実績	達成率														係長
				市民が感じる治安状況(体感治安)	73.7%(平成27年)	目標 前年(73.7%)比増	77.9%	平成31年度 90%					職員	0.17人						

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	
II-1-(3)-③ 暴力団追放運動の推進	19	暴力追放の推進	安全・安心センター	社会全体で暴力団を排除するため、事業者・市民の暴排意識を高める市民暴力追放総決起大会や暴力追放強調月間活動などを実施し、官民一体となって取り組む。	暴追対策に対して評価した市民の割合	48% (平成25年)	目標 前年度(88%)比増 72%以上 実績 70% 73.6% 達成率 103.0% 102.2%	前年度比増(毎年度)	10,920	9,242	11,025	12,850	課長 0.40人 係長 0.30人 職員 0.70人	順調	暴力追放意識の高揚と暴排機運の醸成を図ることを目的に、暴追大会や研修会等を34回開催(目標28回)し、目標を達成した。また、暴追対策に対する市民の評価が増加していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 目標を達成しており、官民一体となった暴力追放の推進に取り組んでいるため、「順調」と判断。 【課題】 暴追大会や研修会等を引き続き開催し、事業者・市民の暴排意識を薄れさせないことが必要である。	暴力追放の推進は、市民生活のみならず、本市が都市として発展していく上でも必要不可欠である。また、暴力追放を推進する上で、民事介入暴力等の相談を受け付け、市民の不安感解消を図ることも必要であるため、引き続き事業を実施していく。	
	20	民事介入暴力相談事業	安全・安心センター	市民生活への暴力団等の介入を排除し、安全・安心なまちづくりを図るため、民事介入暴力相談を実施。	暴追対策に対して評価した市民の割合	48% (平成25年)	目標 前年度(88%)比増 72%以上 実績 70% 73.6% 達成率 103.0% 102.2%	前年度比増(毎年度)	26,865	25,853	25,095	4,300	課長 0.20人 係長 0.20人 職員 0.00人	順調	3名の専門相談員が民事介入暴力相談を受け、警察や弁護士と連携し、適切な相談を実施できたことから、「順調」と判断。				
II-1-(3)-④ 交通安全の推進	21	交通安全推進事業	安全・心都市整備課	第9次北九州市交通安全計画に基づき、重点項目について啓発を実施。生涯にわたる交通安全教育及び効果的な広報啓発活動により、市民に広く交通安全思想を普及し、交通事故防止を図るもの。	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	8,325件 (H26年)	目標 前年(8,325件)比減 8,075件 実績 8,075件 7,729件 達成率 250件減 346件減	平成32年度までに7,300件以下	5,440	5,418	5,421	9,800	課長 0.20人 係長 0.30人 職員 0.60人	順調	小学校等での交通安全教室が目標の27,000人を大きく上回る34,573人が参加し、前年比較で交通事故発生件数が346件減少、交通事故死者数が7人減少しているため「順調」とした。				
	22	交通安全センター管理運営	安全・心都市整備課	北九州市立交通安全センターを管理するとともに、交通安全教室等安全運転や、交通ルール・マナーの徹底を図る。	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	8,325件 (H26年)	目標 前年(8,325件)比減 8,075件 実績 8,075件 7,729件 達成率 250件減 346件減	平成32年度までに7,300件以下	27,573	27,572	27,573	3,650	課長 0.10人 係長 0.10人 職員 0.20人	順調	交通公園の入場者数、(目標187,715人、実績214,297人)安全教室の開催数(目標508回、実績540回)が目標を上回っている。また、交通事故発生件数、自転車関連事故発生件数ともに前年比較で減少したため「順調」と判断。				
	23	「自転車マナーアップ北九州」推進事業	安全・心都市整備課	自転車のルール・マナーアップを推進するため、自転車交通ルール検定の実施など自転車交通安全教育や啓発の推進とともに、方が一に備えた自転車保険の加入促進に取り組む。	自転車関連事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	972件 (H26年)	目標 前年(972件)比減 850件 実績 850件 777件 達成率 122件減 73件減	前年比減(毎年)	2,000	1,947	2,123	5,400	課長 0.10人 係長 0.20人 職員 0.30人	順調	自転車交通ルール検定の参加校数は目標どおりの62校、自転車事故発生件数は前年比較で73件減少したため「順調」と判断。		引き続き交通事故防止について、子どもから高齢者まで幅広く啓発を行う。		

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度				H30年度予算要求に向けた 施策の方向性	
					指標名等	現状値 (基準値)	H27年度	H28年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の理由及び課題
II-1- (3)-⑤ 非行や犯罪を生まない地域づくり	24	地域防犯対策事業	安全・心進課	北九州市安全・安心条例では、「市民等は意識を自ら高め、行動すること」「市及び市民等は相互に連携を深め、推進すること」と定められていること、この事業は、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実感できるまちの実現を図る。	街頭犯罪件数	目標	前年(4,973件)比減	前年(3,706件)比減	前年比減	33,346	31,347	31,732	15,900	課長	0.10人	順調	生活安全パトロール隊による年間パトロール平均参加人数(1,826人⇒1,785人)、自主防犯活動の実施回数(273回⇒251回)は昨年度に比べ減少しているもの、目標を達成している。 また、街頭犯罪認知件数が前年度に比べ972件減少(3,706件⇒2,734件)したことに加え、市民が感じる治安状況が4.2%増加(73.7%⇒77.9%)し、目標を達成していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各種犯罪認知件数の減少とともに、市民が感じる治安状況も前年度に比べ好転している。 また、地域の生活安全パトロール隊による自主防犯活動の参加人数や実施回数は目標を達成していることから、「順調」と判断。 【課題】 体感治安の更なる向上のため、引き続き安全・安心に関する情報や取組の情報発信が求められる。	犯罪認知件数の減少に体感治安の改善が伴うよう、引き続き安全・安心に関する活動の推進を図るとともに、安全・安心に関する情報や取組を効果的に市内外に発信していく。
						実績	3,706件	2,734件												
II-3- (4)-① 平和の尊さへの理解の促進	25	戦時資料展示コーナー管理運営事業	地域振興課	本事業は、市民からご寄贈いただいた戦時下の資料を保管、展示することにより、北九州市立埋蔵文化財センター内に開設した戦時資料展示コーナーにおいて、戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを多くの市民に理解していただく。	戦時資料展示コーナー見学者数	目標	4,000人	4,000人	4,000人 (平成29年度)	1,420	1,533	1,270	1,220	課長	0.03人	大変順調	広報活動の結果、目標値を上回る見学者数となったため、「大変順調」と判断した。	大変順調	【評価理由】 見学者数は戦時資料展示コーナー開設以来最多となり、目標値を上回ったことから「大変順調」と判断。 【課題】 さらなる見学者数増につなげるため、広報活動の充実に取り組んでいかなければならない。	戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを、多くの市民に理解していただくため、広報活動を通じて、戦時資料展示コーナーの周知に一層力を入れていく。広報活動を通じて、入場者数の増加に繋げていきたい。
						実績	3,972人	5,274人												
III-1- (1)-④ 市民のモラル・マナーの向上	26	モラル・マナーアップ関連条例推進事業	安全・心都市整備課	条例や基本計画に基づき下記事業に取り組む。 ・小倉・黒崎地区(迷惑行為防止重点地区)での巡視活動(過料の適用) ・地域が実施する迷惑行為防止活動に対する支援 ・小学生を対象としたモラル・マナーアップ教育 ・モラル・マナーアップに関する広報啓発	迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加	目標	前年度(82団体)比増	前年度(87団体)比増	前年度比増(毎年)	29,492	26,999	27,499	6,150	課長	0.10人	順調	「迷惑行為防止重点地区での巡視・啓発活動回数」(目標15回以上/月、実績22回/月)及び「迷惑行為防止重点地区の取組に関する広域的な広報・啓発活動回数」(目標36回、実績45回)について目標を達成した。 また、成果指標である「路上喫煙率」は目標を達成出来なかったが、「迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加」では目標を達成していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 路上喫煙率は前年度よりやや増加しているものの、迷惑行為防止に係る地域活動団体数が前年度より増加しており、活動の裾野が広がっていると判断し「順調」としたものの。 【課題】 円滑な巡視活動や活動の裾野の拡大のため、様々な機会を捉えた広報や周知、路面標示等の整備が必要。	モラル・マナーアップ関連条例推進事業について、基本計画(第2次計画)に掲げた目標達成に向けて取り組みの充実・強化を図る。
						実績	87団体	92団体												
	27	迷惑行為防止重点地区サイン整備事業	安全・心都市整備課	迷惑行為防止重点地区内の路面標示等サインことで、円滑な巡視活動や広報・周知の取り組み強化につなげ、市民のモラル・マナーアップを推進する。	迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加	目標	前年度(82団体)比増	前年度(87団体)比増	前年度比増(毎年)	2,000	1,922	1,944	4,400	課長	0.10人	順調	「路面標示設置枚数」について目標どおりの46枚を達成した。 また、成果指標である「路上喫煙率」は目標を達成出来なかったが、「迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加」では目標を達成していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 路上喫煙率は前年度よりやや増加しているものの、迷惑行為防止に係る地域活動団体数が前年度より増加しており、活動の裾野が広がっていると判断し「順調」としたものの。 【課題】 円滑な巡視活動や活動の裾野の拡大のため、様々な機会を捉えた広報や周知、路面標示等の整備が必要。	
						実績	87団体	92団体												
					路上喫煙率(歩行者に占める喫煙者の割合)	目標	前年度(小倉0.17%、黒崎0.24%)以下	前年度(小倉0.10%、黒崎0.20%)以下	前年度以下(毎年)											
					実績	小倉0.10% 黒崎0.20%	小倉0.16% 黒崎0.36%	小倉0.07% 黒崎0.16%												

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H28年度		H27年度		人件費(目安)			H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題			
Ⅲ-2-(1)-② 地域における伝統文化の発掘・継承	28	文化財保存補助	文化企画課	伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承していく。	指定無形民俗文化財保存支援団体数	16団体 (H26年度)	目標 15 団体	16 団体	16 団体	16 団体 (H28以降 毎年度)	1,007	1,007	1,198	11,050	課長 0.20 人	係長 0.50 人	職員 0.50 人	順調	保存団体への周知と適切な協議を行い、事業を進めることができたため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 保存団体への周知と適切な協議を行い、事業を進めることができたため、「順調」と判断。 【課題】 引き続き保存団体に対する周知を行い、伝統文化を次世代に継承していく必要がある。	本事業の補助金は、市の指定無形民俗文化財保存団体が行う伝承者の養成や文化財の公開のほか、用具の購入や修理の費用の一部に充てられており、子どもたちに対する技術の伝承など、伝統文化の保存・継承につながっている。補助金事業は、文化財保存団体の活動の強化につながる有益な手段となっていることから、今後も引き続き継続していく。

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																	
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	
Ⅲ-2-(2)-① 発信力の高い文化芸術の振興	29	芸術文化活性化事業	文化企画課	<p>【劇場・自主事業】 エンターテインメントから芸術性の高い作品まで舞台芸術全般を網羅し、幅広い年代層をターゲットに公演を行う。また、北九州芸術劇場オリジナルの演劇作品等を制作し、公演を実施。</p> <p>【響ホール・自主事業】 室内楽専用ホールの特性を生かした質の高いコンサートや響ホールを拠点として地元演奏家を積極的に育てるコンサートを行う。また、響ホールからの発信を意識した、オリジナリティのある演奏会を実施。</p>	北九州芸術劇場・自主事業入場率	目標 80 %	実績 88 %	達成率 110.0 %	80 % (平成29年度)	141,839	120,539	100,155	3,550	課長 0.05 人	順調	北九州芸術劇場については、幅広い年代層を対象とした公演が提供され、入場率も目標値を上回った。 響ホール事業については、入場率の面で目標を若干下回ったものの、昨年度から一定の改善が見られた。また、国内外で活躍する著名な演奏家による公演のみならず、声楽コンサートや子ども楽しめるファミリーコンサート等、幅広いラインナップをそろえ、来場者の満足度は非常に高かった(アンケートでは回答者全員が「内容に満足」と回答)。 以上のことから、本市の文化振興に寄与したと判断し、「順調」とした。	順調	【評価理由】 劇場、ホールは自主事業の発信により、文化芸術の発信し概ね目標を達成した。北九州国際音楽祭は高い満足度を維持している。また、「映画の街・北九州」の認知度は年々高くなっており、「順調」と判断した。 【課題】 高い入場率につながる魅力的な自主事業を発信していく必要がある。また、芸術文化の振興を街のにぎわいづくりにつなげていくことが重要と考える。	今後とも発信力の高い、まちの魅力づくりにつながる事業の実施を目指し、事業内容を検討し、効率性や収支の観点も加えながら、事業規模を維持していく。 映像製作誘致強化関連事業については、アジアを中心とする海外作品の誘致にも積極的に取り組む、「映画の街・北九州」という都市ブランドを国内外に広く発信していく。 松永文庫については、全国的に注目されている施設であることから、企画展等の充実を図り、「映画の街・北九州」の情報発信拠点として、国内外に広く映画文化を発信していく。
	響ホール事業・響ホール自主事業入場率	目標 65 %	実績 57.7 %	達成率 88.8 %	65 % (平成29年度)					係長 0.17 人	職員 0.17 人								
	北九州国際音楽祭	目標 85 %	実績 100 %	達成率 117.6 %	85 % (平成29年度)	40,000	28,860	29,021	1,625	課長 0.05 人	係長 0.06 人	職員 0.06 人							
31	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	<p>映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつながる。</p>	地域経済への貢献(直接経済効果)	目標 110,000 千円	実績 106,909 千円	達成率 97.2 %	110,000 千円 (毎年度)	59,288	57,280	33,701	36,100	課長 0.40 人	大変順調	成果指標として掲げた撮影隊の市内滞在に伴う地域経済への貢献(直接経済効果:目標110,000千円、実績408,148千円)、北九州フィルム・コミッションの市民への認知度(目標65.0%、実績72.6%)とともに、目標値を達成したことから「大変順調」と判断。	順調			
北九州フィルム・コミッションの市民への認知度	目標 60.0 %	実績 58.7 %	達成率 97.8 %	80.0 % (平成30年度)					係長 1.80 人	職員 1.80 人									
32	松永文庫企画事業	文化企画課	<p>映画・芸能資料館「松永文庫」における企画展示・イベント等の積極的な開催を通じて、「映画の街・北九州」の情報発信に取り組む。</p>	来館者数年間9万人	目標 10万人	実績 9万人	達成率 90.0 %	10万人/年	6,500	6,500	—	4,150	課長 0.10 人	順調	来館者数はわずかに目標を下回ったが、企画展は目標どおり4回開催したことから、「順調」と判断。 また、毎月イベントを開催すると共に、学術関係者を集めたシンポジウムを開催するなど、精力的に取り組むを進めている。	順調			
									係長 0.30 人	職員 0.00 人									

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度			H30年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価
Ⅲ-2-(2)-② 市民の文化芸術活動の促進	33	芸術文化育成負担金・補助金	文化企画課	本市の文化水準の向上及び地域文化の振興を推進することを目的として、積極的に文化活動を展開している文化団体等の事業に対して、助成を行う事業。	各種文化事業の実施	16事業(H23年度)	目標 15 事業 実績 15 事業 達成率 100.0 %	16 事業 16 事業 100.0 %	14事業(平成29年度)	41,450	40,334	37,424	5,825	課長 0.05 人 係長 0.30 人 職員 0.30 人	順調	助成団体数は前年と同程度(前年度比1団体増の16団体)であり、各団体の事業は予定どおり実施され、多数の来場があった。この助成制度の存在により、地域・市民レベルにおける文化活動を支える一定の効果があることから、事業評価を「順調」とした。	順調	【評価理由】 文化団体や市民の行う芸術・文化活動等を助成し、市民の文化芸術活動の促進に寄与したと判断できるため、「順調」とした。 【課題】 助成の内容や必要性を検討しながら、事業を実施していく。	助成制度は、市民レベルでの活動を支えるものであり、市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興のためにも、今後も必要なものである。
	34	北九州市文化振興基金	文化企画課	北九州市の文化水準の向上と地域文化の振興に資することを目的として設置された北九州市文化振興基金運用果実により、市民の行う芸術・文化活動等に対し助成を行う。	北九州市文化振興基金奨励事業の補助件数	27件(H21年度)	目標 25 件 実績 30 件 達成率 120.0 %	25 件 21 件 84.0 %	25件(毎年度)	10,130	7,682	8,956	3,825	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.30 人	順調	補助件数は減少したものの、限られた予算の中で、市民の自主的な芸術・文化活動の助成を行うことができたため、「順調」と判断。			
Ⅲ-2-(2)-③ 市民が文化芸術に接する機会の拡大	35	美術館企画展充実事業	美術館普及課	美術館本館及び分館において、多彩で魅力ある企画展を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進する。	美術館の入館者数	245,420人(H26年度)	目標 150,000 人 実績 153,707 人 達成率 102.5 %	113,000 人 113,274 人 100.2 %	220,000人(H29年度)	80,120	77,601	71,370	36,750	課長 0.25 人 係長 0.65 人 職員 3.65 人	順調	平成28年度は、本館改修工事に伴う休館のため、企画展及びコレクション展の実施ができなかった。分館では気軽に楽しめる美術作品や、世界的な美術作品など、幅広い作品の企画展を開催し、市民に美術にふれる機会を提供した。目標値を達成していることから「順調」と判断した。			
	36	博物館企画展・特別展充実事業	自然・歴史博物館普及課	企画展・特別展は、特定のテーマを設けて自然史や歴史に関する展示を行うことにより、市民が楽しく学べる場を提供し、本市の学術文化の発展を図るもの。 <平成28年度特別展> ・春の特別展「不思議の教室～よみがえる学校標本たち～」 ・夏の特別展「恐竜博2016」 ・秋の特別展「関門幕末維新伝」 ・冬の特別展「発掘された日本列島2016」 ・春の特別展「ホントはすごい! どうぶつ展～飛ぶ、走る、泳ぐ～」	博物館総入館者数	369,711人(H24年度)	目標 410,000 人 実績 472,389 人 達成率 115.2 %	420,000 人 508,003 人 121.0 %	420,000人(毎年度)	48,684	45,845	52,237	74,600	課長 1.40 人 係長 1.80 人 職員 5.40 人	大変順調	春の行楽シーズンや夏休みなどの多客期に誘客力の高い特別展を開催することで、総入館者数について目標値を達成するとともに、前年よりも入館者数を増加することができたため、「大変順調」とした。	順調	【評価理由】 美術館は改修工事に伴う休館のため、コレクション展を実施できなかったが、美術館、博物館ともに入館者数が目標に達しているため、「順調」と判断。 【課題】 魅力ある企画展・特別展を開催し、市民が芸術文化に接する機会を提供することが必要。	平成29年度、美術館は本館リニューアルオープン、博物館は開館15周年を迎える。この好機を生かし、入館者増につながる効果的なPRを実施するとともに、幅広い企画展・特別展を開催し、市民が芸術文化にふれる機会を提供していく。

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施							【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度			H30年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価
Ⅲ-2-(2)-(4)文化芸術の担い手の育成	37	「合唱の街づくり」推進事業	文化企画課	市民の歌声があふれる「合唱の街・北九州」の実現に向けて、子どもたちからシニア世代まで幅広い多くの市民が、合唱する側として参加するまちづくりを進めていく。	合唱関連事業における歌い手としての参加者	目標	—	1,000人	1,200人(平成29年度)	8,000	8,844	1,797	7,150	課長	0.10人	大変順調	合唱が盛んな本市の素地を活かし、合唱関連の様々な事業を行った。来場者数は昨年度実績の2倍となり、歌い手としての参加者も1,000人を超える等、来場者及び参加者ともに「合唱の街・北九州」を感じることができ、音楽文化の振興及びシビックプライドの醸成に大きく寄与したため、「大変順調」と判断した。	順調	【評価理由】 目標に達していない事業もあるが、音楽・現代美術・文学など様々な分野の事業を実施している。 また、次世代の文化芸術の担い手となる子どもたちに対し、優れた文化・芸術に触れる機会を提供しており、文化芸術の担い手の育成に寄与していると判断し、「順調」とした。
						実績	682人	1,304人						係長	0.30人				
						達成率	—	130.4%						職員	0.40人				
						目標	6人	6人						課長	0.10人				
38	現代美術センター・CCA北九州支援事業	文化企画課	CCA北九州は、現代美術の世界的な拠点のひとつとなることを目指して活動している研究・学習機関。国内外から集まる現代美術の若手アーティスト等の指導育成、招聘アーティストによる新作発表のための展覧会、国内外の第一線で活躍する学芸員による「キュレーターミーティング」を開催するとともに、CCA北九州のネットワークを活かして、その活動を広く市民に浸透させるための文化講座、子ども向けワークショップなどの事業を行っている。これら事業を実施しているCCA北九州を支援するもの。	フェロシッププログラムの受講者数	目標	6人	6人	5人(平成29年度)	55,175	54,945	54,325	8,150	課長	0.10人	順調	平成27年9月、市立八幡病院の移転に伴い、八幡東区尾倉から若松区の学研都市ひびきのに移転し、地理的に不便になったこと、また平成27年度比約600万円の予算減により、市民対象の公開事業の開催を減らさざるを得なかった(18回→15回)こと等により、CCA事業への参加者数は目標に達しなかった。しかしながら、このような厳しい状況の中、CCA北九州のメイン事業であるフェロシッププログラム事業においては、受講生を5名(前年度比2名増)確保するなど、移転の影響から若干復調している。また、建築ワークショップ事業においては初めて北九州市立大学の参加協力を得て実施し、地域との連携も図ることができた。以上から、事業評価を「順調」とした。	【課題】 文化・芸術の担い手を育成していくためには、事業を効率的に周知するとともに、市民が文化・芸術に触れる機会を確保していく必要がある。 今後、学校・地域等における教育普及活動(アウトリーチ)やホール等の文化施設における体験活動等、子どもたちの文化・芸術に接する機会の実現に向けて、事業内容を検討していきたい。		
					実績	3人	5人						係長	0.70人					
					達成率	50.0%	83.3%						職員	0.00人					
					目標	2,200人	2,200人						課長	0.20人					
39	子どもノンフィクション文学賞	文学館	「ノンフィクション」というジャンルの作品を書くことで、子どもたちが人間や社会への関心をもつ契機となり、思考能力や人間としての成長を促すことを目的に、平成21年度に全国の小中学生を対象に創設した。	応募総数	目標	1,000件	1,000件	1,000件(H29年度)	12,500	9,324	7,760	9,300	課長	0.40人	大変順調	応募総数が目標を上回ったため「大変順調」と判断した。			
					実績	570件	1,202件						係長	0.40人					
					達成率	57.0%	120.2%						職員	0.40人					
					目標	1,000件	1,000件						課長	0.05人					
40	林芙美子文学賞事業	文学館	「放浪記」、「浮雲」などの作品で知られ、特に短編の名手として評価の高い林芙美子の名を冠する文学賞。 多くの文学者、作家を輩出した北九州市の豊かな文化的土壌を全国に発信するとともに、北九州市文化振興計画の重要な柱である「人材育成」に寄与することを目的とする。	「林芙美子文学賞」作品応募数	目標	1,602件(H26年度)	700件(H29年度)	700件(H29年度)	16,000	12,613	11,995	5,825	課長	0.30人	順調	応募作品数は目標に至らなかったが、「作家として書き続けていくことのできる才能の発掘」というコンセプトを明確にし、掲載誌を文芸誌に変更するなど受賞後のフォローに力を入れる新しい試みを実施した。このことから「順調」と判断した。			
					実績	975件	628件						係長	0.30人					
					達成率	97.5%	62.8%						職員	0.30人					
					目標	1,000件	1,000件						課長	0.05人					

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度				H30年度予算要求に向けた 施策の方向性			
					指標名等	現状値 (基準値)	H27年度	H28年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題				
41		優れた文化・芸術との“出会い”創造事業	文化企画課	将来の文化・芸術の担い手を育成し、本市の文化振興をさらに進めるとともに、シックプライドの醸成につなげていくため、若者や子どもたちを中心に優れた文化・芸術との“出会い”の場・機会を創造していく。	教育普及事業への参加者数の増加	2,500人(H27年度)	目標 2,500人	実績 4,024人	達成率 161.0%	3,000人(平成29年度)	18,000	14,450	-	8,725	課長 0.15人	係長 0.40人	職員 0.40人	大変順調	小中学校等へのアーティストの派遣や、放課後児童クラブでの訪問コンサートの実施、東京藝術大学等の一流芸術家による指導等、子どもたちが優れた文化や芸術に触れることのできる機会を作ることができた。これにより、シックプライドの醸成や本市の文化振興に寄与したため、「大変順調」と判断した。				

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度			H30年度予算要求に向けた 施策の方向性	
					指標名等	現状値 (基準値)	H27年度	H28年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由		局施策 評価
Ⅲ-2- (2)-⑤ 文化芸術 によるまちづくり	42	北九州市漫画ミュージアム普及事業	漫画ミュージアム事務局	北九州市漫画ミュージアムにおいて、常設展示の充実・企画展・イベント等の開催を通じて漫画文化の普及を目指す。	漫画ミュージアム年間入場者数	83,161人 (H27年度)	目標 100,000人 実績 83,161人 達成率 83.2%	100,000人 100,766人 100.8%	10万人/年	62,755	59,751	45,702	44,000	課長 1.00人 係長 1.00人 職員 3.00人	順調	魅力的な企画展の開催により年間入場者数が目標に達した。ワークショップ等も予定どおり開催しており「順調」と判断。			
	43	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献(直接経済効果)	100,000千円 (H21年度)	目標 110,000千円 実績 106,909千円 達成率 97.2%	110,000千円 408,148千円 371.0%	110,000千円(毎年度)	59,288	57,280	33,701	36,100	課長 0.40人 係長 1.80人 職員 1.80人	大変順調	成果指標として掲げた撮影隊の市内潜在に伴う地域経済への貢献(直接経済効果:目標110,000千円、実績408,148千円)、北九州フィルム・コミッションの市民への認知度(目標65.0%、実績72.6%)とともに、目標値を達成したことから「大変順調」と判断。			
					北九州フィルム・コミッションの市民への認知度	59.8% (H25年度)	目標 60.0% 実績 58.7% 達成率 97.8%	65.0% 72.6% 111.7%	80.0% (平成30年度)										
	44	文学の街・北九州発信事業	文化企画課	女性俳句の草分けである杉田久女・橋本多佳子などのPR・顕彰に取り組むとともに、「北九州文学サロン」を拠点として、点在する文学的素材やさまざまな文化資源・文化的取組みをつなげる仕組みづくりを行う。	「北九州文学サロン」の来館者数	—	目標 — 実績 — 達成率 —	施設開館 施設開館 —	39,000人 (H29~31年度)	22,000	22,026	2,510	6,400	課長 0.10人 係長 0.30人 職員 0.30人	順調	杉田久女・橋本多佳子など本市ゆかりの文学者の顕彰や、点在する文学的素材やさまざまな文化資源・文化的取組みを行う拠点となる施設「北九州文学サロン」を整備し、開館することができた。	順調	【評価理由】 漫画ミュージアムは年間入場者数が10万人を超え、目標を達成した。また、北九州文学サロンが開館し、「文学の街・北九州」を発信する拠点が整備されたこと、「映画の街・北九州」の認知度が年々高くなっていることから、「順調」と判断。 【課題】 整備した拠点を活用し、魅力ある企画・取組みの実施、情報発信が必要である。	アジアを中心とする海外作品の誘致にも積極的取り組みとともに、全国的に注目されている松永文庫の企画展等の充実を図り、「映画の街・北九州」という都市ブランドを国内外に広く発信していく。「文学の街・北九州」を発信するため、地元商店街や大学生と協力して、「北九州文学サロン」を拠点とした取り組みを進めていく。平成30年度の子ども図書館開館に合わせ、児童文学を顕彰する場の整備を行う。
	45	松永文庫企画事業	文化企画課	映画・芸能資料館「松永文庫」における企画展示・イベント等の積極的な開催を通じて、「映画の街・北九州」の情報発信に取り組む。	来館者数年間9万人	89,317人 (H26年度)	目標 — 実績 — 達成率 —	10万人 9万人 90.0%	10万人/年	6,500	6,500	—	4,150	課長 0.10人 係長 0.30人 職員 0.00人	順調	来館者数はわずかに目標を下回ったが、企画展は目標どおり4回開催したことから、「順調」と判断。また、毎月イベントを開催すると共に、学術関係者を集めたシンポジウムを開催するなど、精力的に取り組みを進めている。			
	46	児童文学の顕彰事業	文化企画課	本市ゆかりの児童文学を顕彰することを目的に、資料や情報資源を集約した場を設けて継続した調査・研究・普及していく拠点とする。	顕彰することを目的とした場の整備	—	目標 — 実績 — 達成率 —	計画策定 計画策定 —	完成 (平成30年度)	3,000	2,782	—	6,400	課長 0.10人 係長 0.30人 職員 0.30人	順調	本市ゆかりの児童文学について、その顕彰の具体的な方法の調査・研究を行い、児童文学を顕彰する場の整備のための計画を策定することができた。			

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																			
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		H26年度		人件費(目安)		H28年度				H30年度予算要求に向けた 施策の方向性
					指標名等	現状値 (基準値)	H27年度	H28年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職 位	人 数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題		
Ⅲ-2- (3)-① 誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり	47	市民体育祭	スポーツ振興課	「市民皆スポーツ」をモットーに、スポーツ・レクリエーションの普及振興を図り、市民の健康で明るい市民生活に寄与するため、市内全域で各種大会や行事を開催。	市民体育祭選手参加者数	30,367人 (H26年度)	目標 30,000人 実績 30,623人 達成率 102.1%	30,000人 (毎年度)	30,000人 (毎年度)	8,500	8,500	8,897	4,650	課長 0.10人 係長 0.20人 職員 0.20人	順調	天候により中止となった種目があったため、参加者数が目標を下回ったが、目標どおり90種目の競技を実施し、「順調」とした。					
	48	生涯スポーツ振興事業	スポーツ振興課	市民への生涯スポーツ振興・普及のため、各区においてスポーツ教室、交流大会、ニュースポーツ体験会などを開催。	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	12,371人 (H26年度)	目標 12,600人 実績 14,485人 達成率 115.0%	12,600人	H30年度までに30,000人	20,279	19,251	18,874	990	課長 0.01人 係長 0.05人 職員 0.05人	大変順調	目標を上回る参加人数となっており、「大変順調」と判断。					
	49	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	スポーツ振興課	総合型地域スポーツクラブは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブである。多世代、多目的、多志向を特徴とし地域住民等により自主・主体的に運営される総合型地域スポーツクラブは、これからの地域スポーツの中核をなすものであり、その役割は大きいことから総合型地域スポーツクラブの育成・支援に取り組む。	総合型地域スポーツクラブの会員数	1,800人 (H22年度)	目標 2,700人 実績 2,265人 達成率 83.9%	2,900人	H32年度までに4,000人	3,779	3,455	3,459	2,325	課長 0.05人 係長 0.10人 職員 0.10人	順調	会員数の目標値には達していないが、H29.3.12開催「スポーツファンタジア」において多くの参加(555名)がある等、クラブ間の交流が図られていることから、「順調」とした。					
	50	夢・スポーツ振興事業	スポーツ振興課	2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を踏まえ、国際・全国大会で活躍する選手を育成するため選手個々の能力を高める事業を実施。	教室・強化講習会等の実施 選手強化事業参加者数	- 210人 (H26年度)	目標 — 実績 — 達成率 —	5種目以上 8種目 160.0%	毎年度5種目以上(H31年度まで)	6,000	5,825	5,181	6,305	課長 0.02人 係長 0.24人 職員 0.49人	大変順調	強化講習会等の実施種目(目標:5種目、実績:8種目)、選手強化事業参加者数が目標を上回っており、「大変順調」と判断。					
51	北九州マラソン開催事業	スポーツ振興課	・主催:北九州市、(一財)福岡陸上競技協会 ・主管:北九州マラソン実行委員会 ・後援:国土交通省九州地方整備局北九州国道事務所ほか25団体 ・コース:北九州市役所前～東田地区～戸畑駅前～東港～門司港～北九州国際会議場前 ・種目及び参加人数 マラソン:10,500名、ベアリレーマラソン:150組300名、ファンラン(3km又は5km):1,000名 ・大会当日および前日に関連イベントを開催	マラソン大会開催による経済波及効果 インターネットでのマラソン大会全国評価ランキング(参加者7,000人以上の大会を対象)	10.5億円 (H25年度) 5位 (H28年、6月時点)	目標 11.5億円 実績 — 達成率 —	11.5億円	11.5億円 (H29年度)	103,571	101,961	98,964	77,250	課長 1.50人 係長 3.00人 職員 4.00人	順調	全国のランナーからの高い評価、市民の盛り上がり等により「順調」とした。						

【評価理由】
『誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり』を推進するため、各事業において設定した成果指標の目標を概ね達成しており、「順調」と判断。

【課題】
『誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり』の目玉のひとつである「北九州マラソン」を継続開催し、安定した運営体制を確立することで地域に根付いたシンボルイベントとして成長させる必要がある。

『誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり』を推進するためには、市民に身近なスポーツ大会の開催から、そのスポーツを楽しむような選手の育成など、幅広く事業を展開する必要があるため、引き続き実施していく。

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																	
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	
Ⅲ-2-(3)-② スポーツを通したにぎわいづくり	52	国際大会・全国大会等スポーツ開催	スポーツ振興課	市内において国際大会・全国規模の大会の開催を行い、多くの市民のスポーツに対する関心を高め、「みる」スポーツのニーズを引き出すとともに、スポーツに取り組むきっかけをつくる。また、参加選手の高いレベルに接することで、個々の競技力の向上につなげる。	国際・全国大会等の開催数	29回(H26年度)	目標 20回 実績 26回 達成率 130.0%	26回 100.0%	30回(H32年度)	3,650	3,700	3,750	2,615	課長 0.01人 係長 0.10人 職員 0.20人	順調	目標値を達成できたため、「順調」とした。			
	53	ギラヴァンツ北九州支援事業	スポーツ振興課	本市のシンボルチームである「ギラヴァンツ北九州」を支援するため、ホームゲーム開催経費や遠征費の一部を補助。	ギラヴァンツ北九州の市民認知度	87%(H26年度)	目標 90% 実績 87% 達成率 96.7%	90% 83%	90%(H29年度)	60,000	60,000	60,000	3,075	課長 0.05人 係長 0.10人 職員 0.20人	やや遅れ	ギラヴァンツ北九州の市民認知度は、ほぼ目標どおりとなったが、平均入場者数が目標に届かなかったため、「やや遅れ」と判断。	<p>【評価理由】</p> <p>『スポーツを通したにぎわいづくり』のため、本市のシンボルチームである「ギラヴァンツ北九州」の支援や、大規模国際大会及び全国大会等の誘致事業を実施しており、各事業で設定した目標(ギラヴァンツ北九州の市民認知度、国際大会等誘致実績等)を概ね達成している状態のため、「順調」と判断。</p> <p>【課題】</p> <p>「ギラヴァンツ北九州」主催試合の平均入場者数や「スポーツ観戦率」が目標に届いていないことから、今後もミクニワールドスタジアム北九州を活用するなど、『見る』スポーツの更なる振興を図る必要がある。</p>		
					ギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数	3,622人(H26年度)	目標 4,500人 実績 3,488人 達成率 77.5%	4,500人 71.6%	5,000人(H29年度)										
	54	ホームタウン推進事業	スポーツ振興課	本市をホームタウン・準ホームタウンとする、「ギラヴァンツ北九州」や「福岡ソフトバンクホークス」等の市民観戦事業や、体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施。	スポーツ観戦率	23%(H26年度)	目標 34% 実績 28% 達成率 82.4%	40% 27%	40%(H29年度)	64,450	62,680	59,641	6,575	課長 0.05人 係長 0.15人 職員 0.60人	やや遅れ	スポーツ観戦率が目標に届かなかったため、「やや遅れ」と判断。			
55	大規模国際大会誘致関係事業	大規模大会誘致推進室	生涯スポーツの振興やまちのにぎわいづくりへとつながる大規模国際大会の試合会場及び、ラグビーワールドカップ2019日本大会や2020年東京オリンピック競技大会等の誘致前後のスポーツ交流や文化交流等へとつなげることを目的として、戦略的な誘致プロモーションの展開や、官民一体となった「誘致委員会」による積極的な活動を行う。	ラグビーワールドカップ2019及び2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるキャンプ地誘致数	-	目標 戦略的な誘致プロモーション活動等の実施 実績 - 達成率 -	戦略的な誘致プロモーション活動等の実施	1ヶ国又は1競技以上(H31年度)	30,000	29,805	31,321	54,000	課長 1.00人 係長 2.00人 職員 3.00人	順調	「国際大会や全国大会等の誘致件数」が目標を上回っていることから「順調」とした。				
				国際大会や全国大会等の誘致	4件(H27年度)	目標 3件 実績 4件 達成率 133.3%	3件 4件 133.3%	15件以上(H27~31年度)											

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																	
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	
Ⅲ-2-(3)-③	56	戸畑D街区スポーツ施設整備事業	スポーツ振興課	戸畑区内に点在し老朽化したスポーツ施設を、戸畑区役所横の浅生小・中学校等跡地(D街区)に集約整備する。	施設完成年度における利用者数	140,000人(同地区既存施設利用者数<H24年度>)	目標 —	110,800人(供用開始のH28.9.1からH29.3.31まで)	110,800人(供用開始のH28.9.1からH29.3.31まで)	2,087,013	2,105,526	771,286	18,700	課長 0.30人 係長 1.00人 職員 0.70人	大変順調	予定どおり施設整備が完了し、「浅生スポーツセンター」として平成28年9月に供用を開始し、利用者数も目標を上回っていることから「大変順調」と判断。	大変順調	【評価理由】 予定どおり施設整備が完了し、「浅生スポーツセンター」として平成28年9月に供用を開始し、利用者数も目標を上回っていることから「大変順調」と判断。	平成28年度事業完了
Ⅲ-3-(1)-①	57	地域総括補助金	地域振興課	各地域団体が連携・協力し、まちづくり協議会を中心に地域がとなった地域づくりを促進するため、これにて市各部署が事業に地域団体に交付した補助金を可能な限り一本化し、まちづくり協議会に交付する。	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数	130団体(H26年度)	目標 134団体	134団体	137団体(H30年度)	384,295	341,555	373,858	3,825	課長 0.05人 係長 0.10人 職員 0.30人	順調	導入団体数は目標値に達しなかったが、働きかけを目標どおりに行い、ほぼ導入目標を達成していることから「順調」とした。	順調	【評価理由】 「地域カルテづくり事業」、「地域カルテフォローアップ事業」を実施したまちづくり協議会は目標値に届かなかったものの、「地域総括補助金」は目標どおりに行われていたことから、「順調」と判断。	引き続き、地域が一体となった住民主体の地域づくり・まちづくりを促進するため、まちづくり協議会や、地域で様々な取り組みを行う各種地域団体等に対し、「地域総括補助金」の交付や、各種支援事業など地域のニーズに応じた施策を展開する。
	58	住民主体の地域づくりの促進	地域振興課	まちづくり協議会の活性化を図るため、地域課題解決のアイデア等を盛り込んだ「地域カルテ」の作成や、地域カルテに基づく活動や支援するフォローアップ事業を行うとともに、活動の参考となる事例の紹介等を行う「地域のちから」報告会や、「地域づくりマネジメント研修」を開催し、住民主体の地域づくりを促進する。	地域カルテフォローアップ事業を実施したまちづくり協議会の数	—	目標 10団体	10団体	住民主体の新たな地域づくりが活発に行われている状態	6,326	3,722	4,226	3,575	課長 0.05人 係長 0.15人 職員 0.20人	順調	昨今、「地域カルテづくり事業」と同じ手法(ワークショップ)で地域で実施する類似事業が多くなり、地域の「負担感」が増加、導入を見送るまち協が多くなってきた。また、地域における課題は様々であり、地域が自ら考え課題解決のための新たな取り組みが行える仕組みの構築を図るため、平成28年度当初に「地域カルテづくり事業」の「質」の向上に向けて事業方針の転換を図った。まずは、当事業を実施する区を隔年とすることとし(平成28年度は3まち協)、これを達成したため「順調」とした。	順調	【課題】 地域が抱える様々な課題や、その解決に向けた取り組みの内容は様々であり指標の設定は困難であるが、今後も、他の事業局や区役所コミュニティ支援課等と連携しながら、地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、住民主体の地域づくりに努める。	
Ⅲ-3-(1)-②	59	市民センターの充実	地域振興課	市民センターの管理運営を円滑・適正に行うため、公募により多様な人材を市民センター館長として採用し、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行う。また、市民センターを拠点とした地域づくりを推進するため、未整備校区に市民(サブ)センターを整備し、老朽化対策やバリアフリー化を図り計画的な改修を行う。	市民センター1館当たりの利用者数	41千人(27年度)	目標 42千人	42千人(毎年度)	42千人(毎年度)	2,214,277	2,087,750	2,092,249	46,250	課長 1.00人 係長 1.00人 職員 3.30人	順調	市民センターからの情報発信や、市民センター整備等を概ね計画どおりに進めた結果、利用者数やコミュニティ活動の参加者数はほぼ目標を達成していることから、「順調」とした。	順調	【評価理由】 1館あたりの利用者数は前年度実績と同数であり、引き続き地域活動が活発に行われている。 さらに、市民センターの整備についても、地元調整に十分時間をかけながら、市民センターの改修を行っていく等、「順調」に進んでいる。	市民センターを拠点とした地域づくりを促進するため、老朽化対策やバリアフリー化等ハード面を整備するとともに、館長及び市民センター職員の能力向上を図る研修や、タイムリーな情報発信等ソフト面の充実に努め、利用者の増加を図る。
Ⅲ-3-(1)-②	59	市民センターの充実	地域振興課	市民センターの管理運営を円滑・適正に行うため、公募により多様な人材を市民センター館長として採用し、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行う。また、市民センターを拠点とした地域づくりを推進するため、未整備校区に市民(サブ)センターを整備し、老朽化対策やバリアフリー化を図り計画的な改修を行う。	市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数(延べ)	2,084千人(27年度)	目標 1,955千人	2,200千人	2,200千人(毎年度)	2,214,277	2,087,750	2,092,249	46,250	課長 1.00人 係長 1.00人 職員 3.30人	順調	市民センターからの情報発信や、市民センター整備等を概ね計画どおりに進めた結果、利用者数やコミュニティ活動の参加者数はほぼ目標を達成していることから、「順調」とした。	順調	【課題】 今後も、市民センターを市民が安心して利用できるよう、老朽化対策やバリアフリー化などのハード面の整備とともに、市民センター館長や職員の能力向上など、ソフト面の充実に努めていくことが必要である。	市民センターを拠点とした地域づくりを促進するため、老朽化対策やバリアフリー化等ハード面を整備するとともに、館長及び市民センター職員の能力向上を図る研修や、タイムリーな情報発信等ソフト面の充実に努め、利用者の増加を図る。

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																			
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度			H27年度			人件費(目安)		H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題		
Ⅲ-3-(1)-③ 自治会・町内会への加入促進	60	自治会・町内会活性化の促進	地域振興課	自治会と連携しながら、加入率向上や組織・活動の見直し及び人材育成など新たな課題への対応につながる様々な事業に取り組む、自治会・町内会の活性化を図る。	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合	目標	85 %	85 %	85% (毎年度)	36,822	33,165	30,195	4,095	課長	0.03 人	順調	地域においては、住民の帰属意識の希薄化や高齢化などによる人材不足等の課題は山積しているものの広報・研修等の事業数は目標の15事業を上回る18事業を実施し、マンション等の加入促進に向けたマンション管理会社への働きかけは目標どおり8企業に対して実施した。また「地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合」「地域づくり活動への参加者の割合」が昨年度実績を上回ったことから「順調」とした。	順調	【評価理由】 自治会・町内会の加入促進や活性化に繋がる広報・研修については、自治総連合会と連携しながら継続的に取り組んでおり、「広報・研修等の事業数」は目標を上回り、「マンション管理会社等への働きかけ」を目標どおり実施し、「地域づくり活動」へ肯定的な考えの市民の割合」「地域づくり活動への参加者の割合」は前年度実績をそれぞれ上回ったことから「順調」とした。 【課題】 世代に応じた働きかけや、マンション等の自治会加入促進に向けた取組みなどにより、自治会町内会の活性化に努めていく必要がある。	自治会・町内会を取り巻く課題を解決し活性化を促進するために、マンション等の管理会社等の関係者に積極的に働きかけていくほか、引き続き地域コミュニティの重要性や自治会の必要性について幅広く理解を求めることに力を入れていく。また、地域でリーダーシップを発揮する人材や地域活動の担い手育成支援を積極的に行い、自治会・町内会の加入促進や活性化を図っていく。	
						実績	82.0 %	84.4 %													達成率
Ⅲ-3-(2)-① NPO、ボランティア活動の支援	61	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数(累計)	目標	60 法人	75 法人	90法人 (H29年度)	20,420	18,445	16,252	20,700	課長	0.30 人	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者数が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新規設立NPO法人数(累計)や、補助交付事業件数(累計)が、目標を概ね達成しており、「順調」と判断。 【課題】 さらなる市民活動の支援によってNPO・ボランティア活動参加者の掘り起こしにつなげていく必要がある。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。	
						実績	60 法人	73 法人													達成率
Ⅲ-3-(2)-① NPO、ボランティア活動の支援	62	NPO公益活動支援事業	市民活動推進課	市民活動の更なる促進を支援するため、NPO等が専門性を発揮して行う活動に対し、事業費の一部を補助する。	サポートセンター利用者数	目標	23,500 人	24,000 人	24,500人 (H29年度)	2,744	2,035	3,627	3,775	職員	1.50 人	順調	補助交付事業件数及び成果発表会の参加人数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	さらなる市民活動の支援によってNPO・ボランティア活動参加者の掘り起こしにつなげていく必要がある。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。	
						実績	23,623 人	24,222 人													達成率
Ⅲ-3-(2)-① NPO、ボランティア活動の支援	62	NPO公益活動支援事業	市民活動推進課	市民活動の更なる促進を支援するため、NPO等が専門性を発揮して行う活動に対し、事業費の一部を補助する。	補助交付事業件数(累計)	目標	68 件	74 件	80件 (H29年度)	2,744	2,035	3,627	3,775	課長	0.10 人	順調	補助交付事業件数及び成果発表会の参加人数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	さらなる市民活動の支援によってNPO・ボランティア活動参加者の掘り起こしにつなげていく必要がある。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。	
						実績	72 件	80 件													達成率
Ⅲ-3-(2)-① NPO、ボランティア活動の支援	62	NPO公益活動支援事業	市民活動推進課	市民活動の更なる促進を支援するため、NPO等が専門性を発揮して行う活動に対し、事業費の一部を補助する。	成果発表会の参加人数(累計)	目標	280 人	330 人	380人 (H29年度)	2,744	2,035	3,627	3,775	職員	0.15 人	順調	補助交付事業件数及び成果発表会の参加人数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	さらなる市民活動の支援によってNPO・ボランティア活動参加者の掘り起こしにつなげていく必要がある。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。	
						実績	296 人	331 人													達成率

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		人件費(目安)		H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価		局施策評価の理由及び課題
Ⅲ-3-(2)-② NPO、企業、研究機関などの連携の構築	63	多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	目標	1	5	5件(H29年度)	4,698	4,110	2,671	3,470	課長	0.03	順調	NPOと企業、大学との交流会を予定どおり開催し、各団体間のネットワーク構築のきっかけとなったこと、目標を達成したことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 協働件数が目標を達成したことから、「順調」と判断。 【課題】 参加団体へのフォローアップ等を行い、民間団体間の協働事業の立ち上げを支援する。	NPO、企業等との交流会を実施し、団体間の協働を支援する。
						実績	1	5						係長	0.20					
						達成率	100.0	100.0						職員	0.15					
Ⅲ-3-(3)-① 市民参画と協働のための仕組みづくり	64	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計)	目標	700	1,000	1,250人(H29年度)	1,919	1,132	718	8,300	課長	0.20	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 協働についての研修への参加者数、協働件数ともに目標を達成したことから、「順調」と判断。 【課題】 協働事例が新たな協働につながるよう構築したネットワークを拡大する必要がある。	市民が参画する協働を推進するため、協働への理解を深めるセミナーや、協働事例の発信に取り組んでいく。
						実績	929	1,275						係長	0.30					
						達成率	132.7	127.5						職員	0.40					
	65	多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	目標	1	5	5件(H29年度)	4,698	4,110	2,671	3,470	課長	0.03	順調	NPOと企業、大学との交流会を予定どおり開催し、各団体間のネットワーク構築のきっかけとなったこと、目標を達成したことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 協働についての研修への参加者数、協働件数ともに目標を達成したことから、「順調」と判断。 【課題】 協働事例が新たな協働につながるよう構築したネットワークを拡大する必要がある。	市民が参画する協働を推進するため、協働への理解を深めるセミナーや、協働事例の発信に取り組んでいく。
						実績	1	5						係長	0.20					
						達成率	100.0	100.0						職員	0.15					
Ⅲ-3-(3)-② 市民協働できる市役所づくり	66	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数(累計)	目標	60	75	90法人(H29年度)	20,420	18,445	16,252	20,700	課長	0.30	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各事業の目標を概ね達成しており、市民との協働を推進しているとして「順調」と判断。 【課題】 市民活動の担い手の育成や、協働に対する啓発をする必要がある。	市民との協働を推進するため、セミナー等の充実、協働事例の情報提供に取り組む。
						実績	60	73						係長	0.60					
						達成率	100.0	97.3						職員	1.50					
	67	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計)	目標	700	1,000	1,250人(H29年度)	1,919	1,132	718	8,300	課長	0.20	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各事業の目標を概ね達成しており、市民との協働を推進しているとして「順調」と判断。 【課題】 市民活動の担い手の育成や、協働に対する啓発をする必要がある。	市民との協働を推進するため、セミナー等の充実、協働事例の情報提供に取り組む。
						実績	929	1,275						係長	0.30					
						達成率	132.7	127.5						職員	0.40					
66	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数(累計)	目標	60	75	90法人(H29年度)	20,420	18,445	16,252	20,700	課長	0.30	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各事業の目標を概ね達成しており、市民との協働を推進しているとして「順調」と判断。 【課題】 市民活動の担い手の育成や、協働に対する啓発をする必要がある。	市民との協働を推進するため、セミナー等の充実、協働事例の情報提供に取り組む。	
					実績	60	73						係長	0.60						
					達成率	100.0	97.3						職員	1.50						
67	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計)	目標	700	1,000	1,250人(H29年度)	1,919	1,132	718	8,300	課長	0.20	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各事業の目標を概ね達成しており、市民との協働を推進しているとして「順調」と判断。 【課題】 市民活動の担い手の育成や、協働に対する啓発をする必要がある。	市民との協働を推進するため、セミナー等の充実、協働事例の情報提供に取り組む。	
					実績	929	1,275						係長	0.30						
					達成率	132.7	127.5						職員	0.40						

平成28年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H28年度		H27年度		人件費(目安)		事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	H30年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値(基準値)	H27年度	H28年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位						人数
IV-2-(2)-② ソーシャルビジネス創出の支援	68	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働に必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力やセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計)	目標	700人	1000人	1,250人(H29年度)	1,919	1,132	718	8,300	課長	0.20人	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 研修への参加者数、収入増加団体数が増加したため、「順調」と判断。 【課題】 協働環境の基盤強化につながるようNPOの団体運営力向上を図る必要がある。	経済的に自立したNPOが増加するよう、セミナー等を開催するなど、支援を行っていく。
						実績	929人	1,275人												
IV-4-(1)-② 偉人・先人の顕彰	69	文学館普及研究費	文学館	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。	企画展の入館者数(単位:人)	目標	22,000人	22,000人	22,000人(H29年度)	19,125	17,668	22,919	12,625	課長	0.50人	順調	入館者数が目標を上回ったため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 入館者数は目標を達成しており、企画展入場者の満足度も高い水準であることから「順調」と判断。 【課題】 施設の認知度を高め、これまで以上に市民が文化に接する機会を提供に努め、入館者数増加に繋げる必要がある。	入館者数増加に結びつくイベント・企画展に取り組む。松本清張記念館は平成30年度が開館20周年の節目の年にあたるため、市民をはじめ多くの清張ファンに来館に繋がるよう、魅力ある企画展や講演会などの実施に取り組む。
						実績	23,436人	24,743人												
IV-4-(2)-③ 都市イメージの向上	71	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献(直接経済効果)	目標	110,000千円	110,000千円	110,000千円(毎年度)	59,288	57,280	33,701	36,100	課長	0.40人	大変順調	成果指標として掲げた撮影隊の市内滞在に伴う地域経済への貢献(直接経済効果:目標110,000千円、実績408,148千円)、北九州フィルム・コミッションの市民への認知度(目標65.0%、実績72.6%)とともに、目標値を達成したことから「大変順調」と判断。	大変順調	【評価理由】 「北九州フィルム・コミッション」の認知度が年々高くなり、都市イメージの向上、経済効果に繋がっていることから、「大変順調」と判断。 【課題】 国内外に本市の魅力を発信できる作品の誘致に取り組むことが重要と考える。	アジアを中心とする海外作品の誘致にも積極的取り組み、「映画の街・北九州」という都市ブランドを国内外に広く発信していく。
						実績	106,909千円	408,148千円												
VI-1-(1)-① 市民の力で環境力を高める仕組みづくり	72	市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業	市民活動推進課	環境未来都市計画が掲げる目標を達成するため、NPOなどの提案団体と市が協働して取り組む事業に経費の一部を補助。	補助交付事業件数(累計)	目標	20件	25件	31件(H29年度)	4,954	4,202	4,887	3,775	課長	0.10人	順調	目標を達成しており、NPOの専門性が活かされた先進的な事業が実施されているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 補助交付件数が増加したため、「順調」と判断した。 【課題】 行政と対等に協働できるNPOが少数であること。	協働の理解浸透を図る研修や事業の事例紹介を通じ、NPOによる環境未来都市を推進するための事業を支援する。
						実績	22件	27件												